科目名	マクロ経済学Ⅱ　　Macroeconomics II						
科目担当者	山梨 顕友　　YAMANASHI Akitomo						
単位数	2	配当年次	1年	授業形態	講義	開講学期	後期
履修学部・学科［区分] 他学部他学科履修	経営学部・経営学科［専門教育科目　基礎専門科目］ 法学部・法律学科［専門教育科目　関連科目］					ディプロマポリシーとの関連	(1)(4)
授業の概要	社会の様々な要因が経済活動に影響を及ぼしていると考えられますが、経済の理論を作る際には個別の要因を抽出して分析するのがよさそうです。労働市場での賃金や失業、インフレーション、為替変動などは日常生活にも影響が大きい経済指標ですので、それらを考慮に入れた経済のモデルを考えることにしましょう。また、それら以外にも様々な関心事について分析した経済のモデルがありますので概観します。						
授業の到達目標	①　AD-AS 理論について、理論が前提とする条件とそれから導かれる結論について理解する。 ②　為替レートのモデルについて、閉鎖経済と比べたときに開放経済では政策が与える影響がどのように変化するか理解する。 ③　経済成長や経済循環についての様々な理論について理解する。						

授業計画・内容		
	1	企業の労働需要
	2	労働者の労働供給
	3	労働投入を考慮した場合の所得と消費の分析（AD-AS 理論）
	4	財政・金融政策
	5	インフレ供給曲線とインフレ需要曲線
	6	インフレーションと財政・金融政策
	7	国際収支と為替レート
	8	為替レートと財政・金融政策
	9	経済の国際移動
	10	経済成長モデル
	11	経済成長と貯蓄、投資
	12	マクロ・ダイナミクス
	13	中立命題とマクロ政策の有効性
	14	マクロ経済政策と政策当局
	15	講義の内容復習

授業外学修 (事前学修)	教科書の対応する部分を熟読しましょう。マクロ経済学では様々な経済のモデルを考えるので、既に習ったモデルとどこが違うのかに注意するとよいです。(2 時間程度)
授業外学修 (事後学修)	章末の問題や自分で用意した問題集を自分で解いてみて，類似する問題を解くことができるようになりましょう。もしできなければ質問しましょう。（2 時間程度）

成績評価方法・評価比率・到達目標との対応	成績評価方法	評価比率	到達目標との対応
	定期試験 （ただし一部は課題提出で代替可）	100%	①、②、③

成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合
教科書	井堀利宏『入門マクロ経済学　第 4 版』新世社
参考文献	
その他	基礎的な数学計算について練習を行うことが望ましい学生には、併せて数学ステップアップ講座の受講をお勧めします。